

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善策
2 将来への夢と希望を育て、生徒一人ひとりの能力や適性に応じた進路目標の実現を図る生徒を育成する。	① 進路意識の高揚	1 進路課が発行する『進路の手引き』をホームルーム活動や面談に活用し、進路意識の高揚に努める。	『進路の手引き』のホームルーム活動や面談での活用回数 年3回以上	『進路の手引き』のホームルーム活動や面談での活用回数は全学年平均で年1.3回(前年度年1.8回)であった。進学・就職等の進路活動をサポートするため、進路活動に必要な基本的事項や最近の進路状況等をまとめた『進路の手引き』を作成し、6月末に在校生に配布した。	C	C (評定)	生徒数が減少している中、地元の国立大学の合格者が増えているように、生徒の皆さんの努力だけでなく、先生方の御努力にも敬意を表したい。	進路選択の指針となる様々なデータが詰まっており、生徒や保護者に活用してもらうことを目的にしている。進路の行事や進路学習・面談等より活用されるように働きかけるとともに、内容を吟味してより見やすいものになる工夫をする。
		2 進路ガイダンス・進路講演会を有効的に活用し、生徒の進路意識の高揚につなげる。	生徒・教職員アンケート「進路ガイダンス・進路講演会が役に立った」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒75%(前年度62%)、教職員97%(同100%)であった。進路ガイダンス・進路講演会の実施回数は、1・2年生が年3回(同3回)、3年生が年2回(同2回)であった。	B			
	② きめ細かな進路相談の実施	1 個別面談を適宜実施し、生徒が進路について具体的・主体的に考え行動する姿勢を育てる。	個別面談の実施回数 年5回以上	個別面談の実施回数が年5回以上のホームルーム担任は77%(前年度86%)だった。各学期当初の面接週間、夏休み中の三者面談、その他適宜機会を設けて個別面談を実施した。	B	B (所見)	自分の子どもは池田高校全日制で3年間楽しく有意義に過ごすことができた。担任の先生をはじめとする先生方が親身になって生徒一人一人を指導してくれた。感謝している。	個別面談の中で生徒の学習や進路の悩みにしっかりと向き合い、適切な時期に適切な指導ができるようにする。
		2 三者面談や進路保護者会を実施し、保護者の進路に対する要望の把握に努める。	保護者アンケート「三者面談で担任は保護者の意見や相談を聴いてくれた」80%以上	保護者アンケートの肯定的評価は96%(前年度93%)であった。PTA総会・夏休みの三者面談・進路保護者会等でそれぞれ実施した。	A			
	③ 体系的な進路指導の推進	1 総合的な学習の時間やホームルーム活動等において、段階的・系統的な進路指導を実践する。	生徒アンケート「総合的な学習の時間が進路選択に役に立った」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は62%(前年度59%)であった。総合的な学習の時間やホームルーム活動等を行う進路学習は、3年間の進路の流れに合わせて学年の段階に応じた資料を活用して行った。	C	B	先生方の御指導と比較すると、生徒の皆さんの進路意識ひいては学習意欲が低いように見受けられる。最近卒業した身近な先輩を招き、生徒と交流する機会を設けたらどうか。	きめ細かな進路相談の実施に努め、進路の早期決定を支援した。また、校内実力テストを充実させ、ホームページによる本校教育活動の情報発信にも努めた。しかし、進路意識を高揚させ、総合的な学習の時間等の改善を図る必要がある。
		2 年度初め・年度末に進路課会・学年会を開催し、3年間を通じた系統的・計画的な進路指導ができる方策をまとめる。	教職員アンケート「3年間を通じた系統的・計画的な進路指導ができていく」80%以上	教職員アンケートの肯定的評価は87%(前年度95%)であった。進路課会や学年会の中で、スタディーサポートや模試、進路行事の内容等を再検討し、進路規定の見直しも行った。	A			
	④ 進路の早期決定と進路室の有効活用	1 各学期に進路希望調査を実施し、進路の早期決定と計画的・意欲的な学習への支援を促進する。	教員アンケート「進路希望調査を進路指導に生かすことができた」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は93%(前年度100%)であった。各学期初めに進路希望調査を実施し、その結果を面接週間での個別面談や、三者面談・学力検討会等で活用した。	A	B	進路室利用者は毎年3年生が中心となるが、1・2年生にも進路調べや相談のための進路室利用をさらに促したい。	
		2 進路室の情報提供機能を充実させるとともに、昼休み・放課後・休日等にも開放し、利用者数の増加を目指す。	生徒アンケート(3年)「進路室を年5回以上利用した」80%以上	生徒アンケート(3年)で「進路室を年5回以上利用した」と答えた生徒は74%(前年度79%)であった。自習用ブースの利用者が増えた。また、昼休み・放課後等の面接・小論文指導や、進路調べ等を進路室を利用する生徒が多かった。	B			
	⑤ 校内実力テストの充実と校外模試の活用	1 校内実力テストについて、出題方法や内容を工夫し、学力向上に繋げるとともに、進路指導に活用する。	教員アンケート「校内実力テストの出題で工夫した」80%以上	教員アンケートの肯定的評価は92%(前年度96%)であった。2年前より回数を4回に変更し、出題範囲や内容も改善して、生徒が目標を明確に持ってテスト勉強ができるようにした。また、生徒がテスト勉強に意欲的に取り組むよう、テスト結果を各学期の成績に加味している。	A	B	今後も校内実力テストを形骸化させず、真に実力をつけさせるテストにするための改善に努める。また、生徒が校内実力テストを軽視せずにテスト勉強にしっかり取り組むよう指導する。	
		2 校外模試を学力向上に繋がるよう活用するとともに、データの分析結果を進路指導に生かす。	学年または教科での学力検討会の実施回数 各学期1回以上	学力検討会の実施回数は前年度と同様に1学年が2学期1回、2学年が1学期1回、3学年が各学期1回ずつであった。学力検討会では、生徒の成績や進路希望の状況を詳細に分析し、進路実現のために必要な学力を身につけさせる手だてを学年全体で検討した。	B			
	⑥ 補習授業の充実と土曜講座の実施	1 年間を通じた補習計画を作成し、学年や進路目標に応じた補習授業を実施する。	生徒・教員アンケート「補習授業は充実していた」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒77%(前年度78%)、教職員93%(同90%)であった。学期中や長期休暇中の補習を計画的に運営し、生徒の学力に配慮した補習を行った。	B	B	従来土曜講座が実施困難となり、本年度から内容や実施方法を見直した。キャリア教育の講座に関しては、希望生徒が少なく実施できなかった回もあったので、再検討する必要がある。	
		2 土曜講座を計画的に実施し、応用力の育成により「確かな学力」の向上を図る。	生徒アンケート「土曜講座の内容は満足できるものだった」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は74%(前年度76%)であった。実施回数は1学期1回(同2回)、2学期2回(同3回)、3学期1回(同4回)の計4回であった。内容を本年度から見直し、キャリア教育の講座を2回、英語検定の対策講座を2回実施した。	B			
	⑦ 進路情報をはじめとした本校教育活動の情報発信	1 『Go!Go!池高!』や『進路の手引き』を発行し、本校生の活動状況や卒業後の進路を生徒・保護者・関係中学校等に情報発信する。	『Go!Go!池高!』の発行回数 年10回以上	『Go!Go!池高!』の発行回数は年5回(前年度7回)であった。情報発信に一定の効果はあったと思われるが、計画どおりに発行することができなかった。	C	B	『Go!Go!池高!』は本校の特色や良さをPRする重要な役割を果たしている。今後も本校のPR・情報発信に役立てたい。	
		2 ホームページをリニューアルするとともに、更新を積極的に行い、最新の情報提供に努める。	ホームページの更新回数 月8回以上	ホームページの更新回数は月平均20回(前年度月平均12回)で、目標を達成することができた。	A			